

産地戦略

実施期間 令和6～10年度

実施主体 佐久園芸生産振興協議会
都道府県 長野県
対象地域 軽井沢町油井地区
対象品目 レタス（露地栽培）、キャベツ（露地栽培）



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

佐久地域は、夏秋期における全国屈指の葉野菜等の供給産地として発展してきたが、気候変動に伴う作柄の不安定化、病害虫や連作障害の発生、農薬・肥料等の経費高、労働力の確保など、産地の生産力の維持に課題がある。また、今後、国が策定した「みどりの食料システム戦略」に照らして、環境負荷軽減を図った野菜生産が必要である。

管内の軽井沢町も例外ではなく、病害虫の防除は化学合成農薬主体となっており、特にアブラナ科野菜類の重要害虫であるコナガ等は、薬剤抵抗性が発達しやすく、今後の産地維持の課題となっている。そこで、環境負荷が少ない交信かく乱剤を利用して対象害虫の発生を低減し、適期防除による化学合成農薬の削減や省力化・コスト低減を進め、野菜供給産地として維持・向上を図る。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名 (例)	キャベツ 播種	キャベツ 施肥 耕起	畝立て 定植	追肥	収穫	片付け 耕起							
			レタス 播種	レタス 施肥 耕起	レタス 定植	レタス 収穫	レタス 片付け 耕起						
技術名			約7日間隔の定期防除										

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	キャベツ 播種	キャベツ 施肥 耕起	畝立て 定植	追肥	収穫	片付け 耕起							
			レタス 播種	レタス 施肥 耕起	レタス 定植	レタス 収穫	レタス 片付け 耕起						
技術名		交信かく乱剤設置 前 生消長調査	発生予測に 基づいた適期防 除		交信かく乱剤設置 後半	発生予測に 基づいた適期防 除							

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	240	▶ 255	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	13	▶ 13	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	13	▶ 13	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	13	▶ 13	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学合成農薬の定期的な散布による防除	<ul style="list-style-type: none"> ・交信かく乱剤（コナガコン-プラス、コンフェューザーV）の利用 ・フェロモントラップ調査結果に基づく生物農薬を活用した適期防除 	<ul style="list-style-type: none"> ・化学合成農薬の使用回数の削減 ・薬剤抵抗性の発達リスク軽減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回） キャベツ レタス	7	6	農薬散布間隔 7日→10日
		5	4	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

実証地区（軽井沢町油井地区）生産者、JA佐久浅間、JA全農長野、軽井沢町、野菜花き試験場、佐久農業農村支援センター等関係者が一体となり、以下のとおり取組を進める。

- ・R5年度実証地区（軽井沢油井地区）において、令和5年度に問題となったウワバ類にも効果のある交信かく乱剤（コンフェューザーV）を設置し、発生予察調査を実施。
- ・発生消長の情報を生産者に提供し、適期防除と生物農薬活用による化学合成農薬の削減を継続的に検証。
- ・交信かく乱剤の設置方法や、生産者の防除記録について、データを収集。
- ・化学合成農薬の削減（使用回数・生物農薬の使用等）及び省力化についての効果検証を重ね、環境に配慮した防除体系の確立やコスト削減を図る。
- ・交信かく乱剤の定着に向け、助成内容の検討や生産物を価格転嫁できる仕組みの構築を図る。

関係者の役割

関係者名	農業者	JA佐久浅間	JA全農長野東信事業所
役割	交信かく乱剤の設置 化学合成農薬削減の取組	交信かく乱剤、化学合成農薬削減への指導・助言、取組の普及拡大 発生予察・情報提供 資材調整 生産物販売・PR	交信かく乱剤、化学合成農薬削減への指導・助言 資材調整 生産物販売・PR
関係者名	市町村	野菜花き試験場佐久支場	佐久農業農村支援センター
役割	交信かく乱剤導入への助成 生産物販売・PR	交信かく乱剤、化学合成農薬削減への指導・助言 発生予察・情報提供	交信かく乱剤、化学合成農薬削減への指導・助言、取組の普及拡大 発生予察・情報提供